

令和6年(2024年)9月5日時点回答数（Web入力分のみ集計）

- ① 20歳以上市民対象 689件（回答率：17.2%）
- ② 大学生・高校生対象 982件（回答率：11.3%）

※ アンケート調査回答期日 ① 8月31日
② 高校生：9月11日 大学生等：9月30日

地域幸福度(Well-Being)指標による簡易分析結果

各種統計データを用いた「客観指標」と、上記市民アンケート調査結果を用いた「主観指標」の各因子の偏差値をもとに、4つの区分に分類したものが以下の表となる。

	客観指標50未満	客観指標50以上
主観指標50未満（弱み）	環境に課題があると考えられ、市民の満足度も低いと思われるグループ - 遊び・娯楽 - 子育て - 地域行政 - 事故・犯罪 - 環境共生 - 地域とのつながり - 健康状態 - 教育機会の豊かさ - 雇用・所得 - 事業創造 1	一定の環境は整えられているものの、市民の満足度が低いグループ - 買物・飲食 - 移動・交通 - 初等・中等教育 - デジタル生活 - 公共空間 - 自然災害 - 多様性と寛容性 - 自己効力感 3
主観指標50以上（強み）	環境に課題があると考えられるものの、市民の満足度は高いグループ - 医療・福祉 - 都市景観 - 自然景観 2	一定の環境が整えられており、市民の満足度も高いグループ - 住宅環境 - 自然の恵み - 文化・芸術 4

特に客観指標について、測定に用いる統計データの内容を勘案しながらなぜこのような結果になるのかを考える必要はあるが、概ね以下のように捉えられる。

- ① 優先度が高いと考えられるグループ
- ②, ③ 指標の内容と実態を照らし合わせ、優先度を検討する必要があるグループ
- ④ ①～③と比較して優先度は高くないと考えられるグループ（現状維持）